

第十表 燒山噴火

越後國中頸城西頸城兩郡界ニ跨リ、妙高山ノ西北、赤倉山ノ西南ニ峙ツ、高サ約二千四百十米ニシテ頂上ニ噴口址アリ御鉢ト稱ス稍々瓢形ヲナシ東西ニ長ク其周回凡五百米ニシテ、噴口壁ハ北方ニ於テ極メテ低ク、僅ニ二十米許ナルモ其南壁ハ高峻ニシテ噴口底ヨリ高キコト凡ソ百五十米ナリ。(山崎博士ニヨル)

年月日

同上(西曆)

記事

嘉永五年九月二十日

一八五二年十一月一日

夜子ノ刻鳴動シテ噴出セリ、其噴出ノ地ハ頂上ノ噴口ニアラズシテ其ノ西北山腹ノ罅隙ニシテ今日硫氣洞ノアル所ヨリ少コシク下レル所ナリト云フ、其鳴動ノ如キモ東十軒許ノ地ニ於テ既ニ之ヲ感ゼザリシト云ヘバ其甚シカラザリシヲ察スルニ足ルベシ、此噴出アリテヨリ以來常ニ汽煙ヲ噴キ冬季ニ至リ最モ甚シク其噴出ノ灰塵著ルシク積雪ノ上ニ降りテ燒山近傍早川上流ノ地ニアリテハ一面ニ黝褐色ヲ呈シ、翌年二三月(陰曆)又甚シキ噴出アリテ四月頃ニ至リ漸ク平穩ニ歸セシト云フ。此噴出ニ際シ別ニ鎔岩若シクハ泥流ノ流出セシヲ聞カズ其噴出甚シキニ際シ夜間或ハ火光ヲ認メシモノアリト云ヒ又全ク見ザリシト云フ。唯此噴出ニ在テ著ルシカリシ現象ハ夥シク硫黃ヲ噴出セシコトニシテ、噴出ノ勢ヒ稍々沈靜ニ歸シタル後登山臨檢セシ所ニヨレバ山腹各所ニ多クノ噴汽口ヲ生ジ其數西方直徑九尺一箇所、小孔十六箇所。北方直徑一丈二尺一箇所、同九尺二箇所、小孔二十四箇所。南方直徑二丈一箇所、小孔二十箇所ナリシト云フ。(震災豫防調査會報告第八號山崎博士妙高山震地質調査報文ニヨル)